

# 文章題テスト・説明／論説(5)

月 日  
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

江戸えとのふつうの人びとは、今の人から見れば質素しっそで、不便びんべんなくらしをしていました。ところが、不便びんべんなために時間のゆとりが今よりあったのです。

たとえば大工だいこうさんは、朝は早くから働きはじめても、暗くくなる前に仕事を終わりにしました。電灯でんとうがないので、暗くになるとこまかい作業さぎょうができないばかりか、木のくずが散らばっているところで、ろうそくなどをつければ火事かじになるきけんがあるからです。明るいうちに家に帰った大工だいこうさんは、ゆっくりする時間がかなりあったのです。

また、江戸の面積の半分は田や畑で、農民のうみんがたくさんいましたが、農作物のうさくぶつを育てるには手間てまのかかる時期じきとかからない時期じきがあつて、手間てまのかからない農閑期のうかんきは時間のゆとりがありました。

、家賃やちんや教育費きょういくひが安やすかったため、ふだんはあまり長い時間働はたらいてたくさんかせる必要ひつやうがなかったのです。そのため、江戸ではいろいろな遊あそびに熱中ねつちゆうする時間がたっぷりありました。さまざまな歌うたを習まなぶ、三味線しゃみせんなどの楽器がくぎをひく、和歌わがや俳句はいくなどの詩うたを作る、仲間なかまうちで芝居しばいをする、絵えをかく、花はなや観葉植物くわんえつしょくぶつを育てる、遊山ゆうさんといつて景色けいしょくのいいところへ見物けんぶつに行くなど、おとなの趣味しゆみはたくさんありました。

子どもたちも、今のような宿題しゅくだいや受験勉強しゅけんべんきやうなどなかったので、手習てまないから帰ると、手てつだいをしながらも、日がくれるまで外そとで友だちと遊あそびました。遊あそびの種類しゆるいは、今の子どもよりはるかに多かったと思います。

(石川英輔「江戸のゆったりスローライフ」より)

(注) 江戸…昔の東京。ここでは、江戸時代(一六〇〇年ころからおよそ二六〇年間)の

東京のこと

質素…ぜいたくでないこと

手習い…江戸時代でいう学校のこと



1 線1「江戸のふつうの人びと」の例として、どのような職業(しよくぎよ)(仕事)の人があげられていますか。二つ書きぬきなさい。  
(順不同) 356行目は大工さんのようすを、759行目は農民のようすを説明している。

大工(さん)

農民

2 線2「不便なくらし」とありますが、文中で、不便なことの例としてどんなことがあげられていますか。八字までで説明しなさい。

電(例)灯がないこと。

大工さんの例で、電灯がないことがあげられている。

3 線「時」と同じ部首の漢字で書き表すものを、ア〜エから一つ選んで、記号に○をつけ

なさい。「時」の部首は「日(ひへん・にちへん)」。アは「治る」、イは「待つ」、ウは「祝う」、エは「晴れる」。

ア 病気がナオる    イ 母の帰りをマツ    ウ 卒業をイワう    エ くもり空がハれる

4 線3「暗くなる前に仕事を終わりにしました」とありますが、この理由を次のようにまとめるとき、①、②に当てはまる言葉を、文中からそれぞれ十一字で書きぬきなさい。

① 暗くなると、から。

② から。

① こまかい作業ができない

すぐ後の文から、形に合うようにぬき出す。

② 火事になるきけんがある

5 に当てはまる言葉として最もふさわしいものを、ア〜エから選んで、記号に○をつけなさい。  
の前までは、江戸の人びとに時間のゆとりがあったことを説明し、後ろの文では、さらにつけ加えて、たくさんかせぐ必要もなかったことを説明している。

ア だから    イ けれども    ウ しかも    エ ところが

6 江戸の人びとのくらしについて説明した次のア〜エの文のうち、本文の内ように当てはまらないものを一つ選んで、記号に○をつけなさい。

ア ぐらしは質素だが、時間にはゆとりがあった。

イ 働く時間は短くても、たくさんかせぐことができた。  
 たくさんかせぐ必要がなかったので、働く時間も短かったと書かれている。

ウ おとなにも、熱中できるさまざまな趣味があった。

エ 子どもたちは、手つだいをしながらよく遊んだ。

